

# 海外生活 エッセー

ソウル事務所

## キャッシュレス社会の韓国 ~カード決済履歴をコロナ対策にも利用~

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 今村 斉生 (富山県派遣)

### → この食堂でもカード決済？

経済産業省が2018年に公表した「キャッシュレス・ビジョン」によれば、韓国はキャッシュレス決済比率が89.1%と世界で最も高い国となっています(ちなみに日本は18.4%です)。実際に当地に赴任してから食堂などに入ると、とても歴史を感じる佇まいの小さなお店でも当たり前のようにクレジットカードで決済する韓国人の姿を見て驚きました。スマホケースにカードを入れてスマホだけを持ち歩いている人も多く、日本のオフィス街で見かけるスマホと大きな財布を手にはランチに行く会社員の姿もほとんどありません。筆者も今ではカードケースのみを携帯しており、友人と食事に行った際も誰かが会計した後にアプリで送金することが多いです。

### → 現在進行形の「脱現金」

韓国におけるクレジットカードの普及には、1997年の東南アジア通貨危機への打開策として政府主導で実施された「年間クレジットカード利用額の20%の所得控除(上限30万円)」、「宝くじの権利付与」、「年商240万円以上の店舗でのクレジットカード取扱義務付け」と



クレアソウル事務所近くの食堂街(ローカルなお店でもクレジットカード決済する人が多い)

いう3つの利用促進策が寄与したといわれています。

また、今もなお現金決済は減少傾向で、韓国銀行が2019年に実施した調査<sup>(注)</sup>によれば、最も多く利用する支払手段は？という問いに対し「現金」と答えた割合が26.4%と、2017年の36.1%から2年で約1割減少しました。また、同調査から個人が財布に入れている平均の現金額が5.3万ウォンで、2017年から2.7万ウォン減少したことも分かっています。

### → 意外な効果

キャッシュレス決済が(筆者としては)思わぬところで役立つので紹介します。それが世界に甚大な影響を及ぼしている新型コロナウイルスへの対応です。韓国では住民登録番号がクレジットカード等に紐づけられているため、感染者の移動経路の特定にカード決済履歴が使用されたのです。特定された移動経路は一般に公開されることで消毒、検査、2次感染予防に活かされました。まだ感染が広がっていない2月初旬、ソウル市内の百貨店において、顧客のカード決済履歴等から正確な滞在時間まで特定され、迅速に防疫作業が行われたことが今でも印象に残っています。日本人にとっては、カード決済履歴が個人の行動の特定に使用されることに対し抵抗感がありますが、コロナ対策という点では一定程度の効果があったといえると思います。

### → おわりに

キャッシュレス決済に抵抗があった方も、一度慣れてしまえば、現金に戻れなくなる方が多いのではないのでしょうか。コロナにより非接触での決済にも一層注目が集まる中、新しい決済手段も含めた今後の動向が楽しみです。

(注) 韓国銀行「2019年支払手段およびモバイル金融サービス利用形態調査」